

同窓会入会式

「挑戦する精神が必要」

秋田ノーザン
ブレッツ監督 新出康史氏が激励

さる二月二日、多数の同窓会関係者の参列を得て、平成十八年度同窓会入会式が本校体育館で行われた。最初に辻兵吉同窓会長（昭和19卒）から、「若い諸君の入会を心から歓迎し、このパワーで秋田に、そして日本に活力を与えて欲しい」との歓迎のご挨拶があった。

続いて現秋田ノーザンブレッツラグビーフットボール監督新出康史氏（昭和56卒、秋田市役所）より激励の言葉が述べられた。氏のラグビー現役二十年、監督歴十年の体験を通したお話は、極めて説得力のある内容だった。人生においては失敗を恐れず、何事にもチャレンジする精神が必要である。成功の陰には皆挫折や失敗の繰り返しがあるのだ。氏自身、省みれば、幾多の失敗や挫折を経験して多くを学び、現在がある。失敗を恐れ、困難を回避していたのでは、成功あるいは失敗という貴重な体験もできず、何も得られない。また、こ一番で自分の最高の力を発揮するために「緊張」といかに向



き合うかということにも言及された。今年度、本校ラグビー部が緊張をバネに花園で活躍したことを称え、よい緊張を作り出すためには、自分に対する自信、成功体験の蓄積、反復練習、多くの場数を踏むことが重要であると述べられた。

同窓会からの記念品（三剣菱の文鎮）は、山谷浩二同窓会副会長から、生徒代表牧野由貴さんに贈呈された。離別式では山中卓之さんから、柴田校長へ、本校の視聴覚を活用した教育の充実の一助として「プロジェクター」が贈られた。

羽城館企画展

伊藤 紘美展

十四回目の今年の羽城館特別企画展は、彫刻家の伊藤紘美氏（昭和37年卒）にご協力頂きました。ふるってご鑑賞下さるようご案内致します。

期 日 七月七日～八月三十一日

午前十時～午後四時

（土・日曜、祝祭日は休館）

場 所 秋高同窓会館「羽城館」

「企画展に寄せて」
グローバルな人間
存在へのまなざし

画家・無所属
佐藤 義隆

彫刻家の伊藤紘美さんが、秋田高校同窓会館羽城館で展覧会を開催することになり、秋高美術科旧職員として心から喜びたい。



伊藤紘美さんは、かつて高校教員の時代から、木彫ひとすじに生活感あふれる独特のあたたかみのある人物像・群像制作等で個性を表現してきた。そして作家としての眼は、繊細で現代彫刻の動向に敏感に反応しながらもその強い個性を持続しつつ、その表現の幅を拡大してきたように思われる。

高校教員を退職後、二〇〇五年に由利本荘市岩谷町にあつたアトリエの側に、広い空間のある「伊藤ギャラリー」を個人の資力で建設し、毎年個展を開催して、時々、地域の人々のためにコンサート等のイベントまで実現してしまう行動力には敬服せざるを得ない。造形作家の中で自己の資金でギャラリーまでつくり、発表の場を確保している作

家はそう多くないと思われが、創作へのひたむきな姿勢と行動力が、作品の質を高め、グローバルなテーマや表現方法にも反映しているものと思われる。

最近、具象の木彫を基本として「脱出」シリーズの群像、新しいプラスチックの素材を生かした動きのある「ダンス」シリーズ、やや抽象化された「波」シリーズ、そして素描における現代の不安を繊細に表現したかのような「廃虚」シリーズ、人体素描等、作家の優れたデッサン力をうかがわせる作品群がみられるのである。

私は、ここ十数年来、「人物デッサン会」を秋田市内で伊藤紘美さん等と定期的に続けて、日本人・外国人のプロの美術モデルの人体デッサンを一緒に勉強しているが、これらの作品群の根幹には人体表現への絶えざる研鑽が生かされているように思われるのである。

多くの人々がこの展覧会を訪れ、特に秋高在校生の皆様が作品に接し、作家の心に触れて、現代における地球的規模の危機的環境問題や人間存在のあり方等について一考する縁としていただければ幸いです。